

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

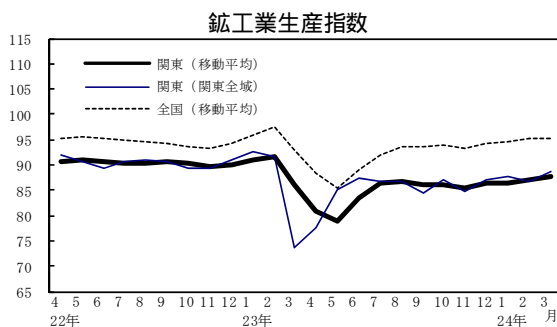
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 2 月)	今回 (平成 24 年 5 月)	
景況判断	足踏み状態	緩やかに持ち直し	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
個人消費	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	
住宅建設	大幅に減少	増加	
雇用情勢	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。(関東全域)

輸送機械は、東北の被災地において震災復旧工事等で利用される普通トラックの需要が増加したこと等から増加している。一般機械は、薄型テレビの不調によりフラットパネルディスプレイ製造装置が低下に寄与したこと等から減少している。電気機械は、新生活向けの小型電気冷蔵庫が増加に寄与したこと等から増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月々は速報値。
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

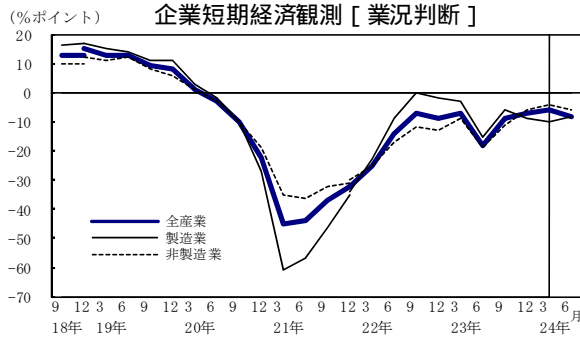
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	15.2	10.3	6.7	3.4	56.2
化学	13.4	▲0.7	—	—	—
一般機械	13.2	▲0.1	▲3.8	▲2.1	▲6.8
電気機械	7.8	▲3.4	3.8	1.4	6.3
食料品・たばこ	7.1	0.1	—	—	—
鉱工業	100.0	0.3	1.6	0.7	11.4

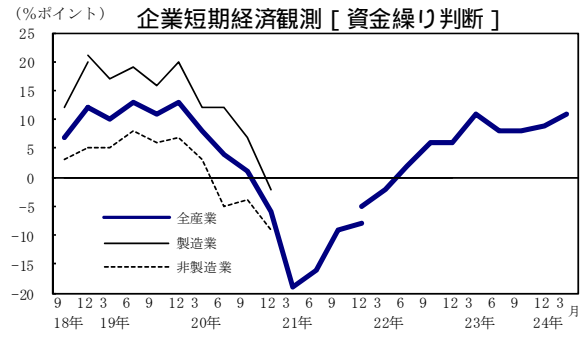
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

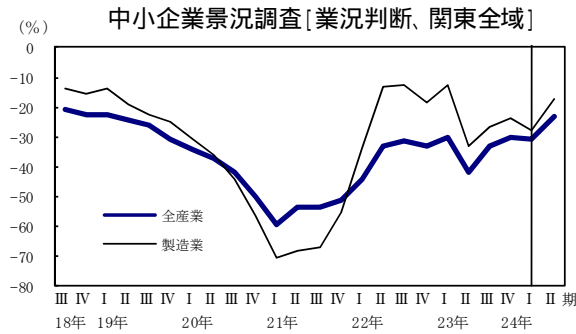
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
関東全域 (新潟県を含む)。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行横浜支店管内。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。24年II期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

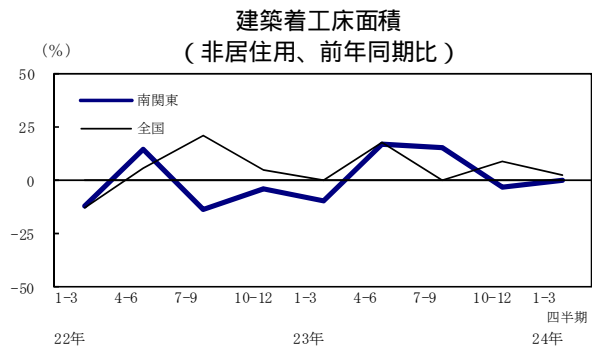
「顧客の海外生産シフトが進むなか、回帰する部品もあり、通常の機械稼働率は一進一退を繰り返している(プラスチック製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度計画
全産業	▲0.6 (▲7.8)	▲0.8
製造業	▲7.4 (▲9.6)	▲1.6
非製造業	17.0 (▲3.8)	0.8

(備考) ()は前回(12月)調査比修正率。
調査対象は神奈川県。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

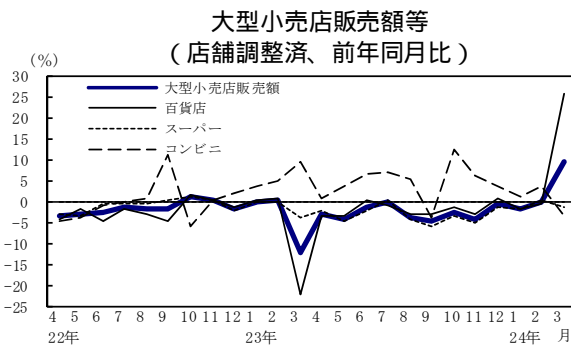
大型小売店販売額

大型小売店販売額は、前年同期比で2.3%増、前期比で0.6%減となった。

百貨店は、1月は、衣料品が冬物セールにより好調だったものの、週末の天候不良が影響し前年を下回った。2月は、バレンタイン商戦は好調だったものの、気温低下の影響等により、春物商品が鈍かったことから前年を下回った。3月は、昨年の震災の影響による営業時間短縮等の反動や、新生活需要によるスーツや靴、鞆、革小物の好調により前年を上回った。スーパーは、昨年の震災の影響の反動等から、備蓄可能な食料品や乾電池、懐中電灯等の家庭用品が不調だったことから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「大型ショッピングモールのリニューアルオープン等が影響し、生鮮3品の店舗の弱体化や店子の閉店と、商店街を取り巻く環境は依然として厳しい(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月
大型小売店(*1)	▲2.8	▲2.8	▲2.3	2.3
百貨店(*1)	▲2.3	▲2.2	▲1.1	6.8
スーパー(*1)	▲3.1	▲3.3	▲3.3	▲1.0
大型小売店(*2)	▲2.2	▲2.3	▲2.1	2.8
(季節調整値)(*3)	(2.3)	(▲0.1)	(▲0.2)	(▲0.6)
乗用車(*4)	▲34.1	▲19.7	21.4	49.3
(季節調整値)(*4)	(▲11.7)	(23.5)	(8.5)	(22.6)

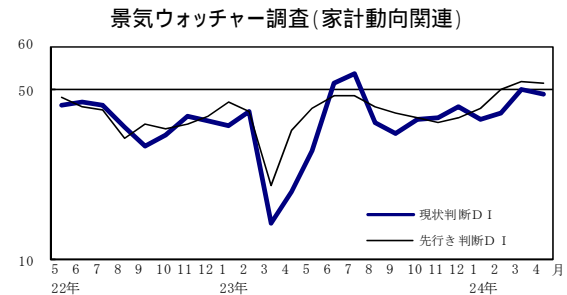
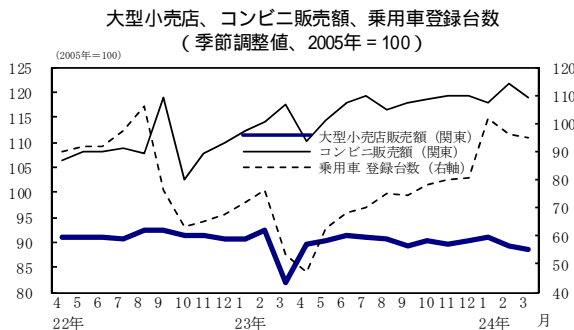
(備考)1. 南関東地域、店舗調整済、前年同期比(%)、1-3月は速報値

2. 南関東地域、店舗調整前、前年同期比(%)、1-3月は速報値

3. 関東全域、店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

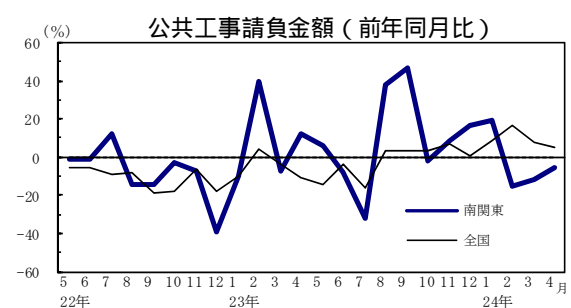
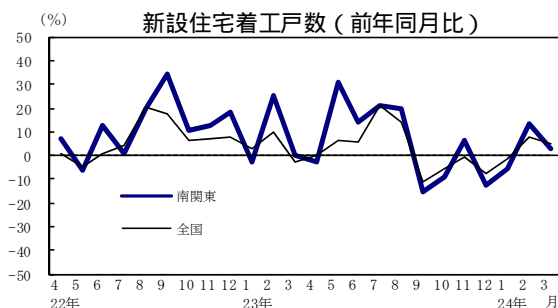
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲で前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

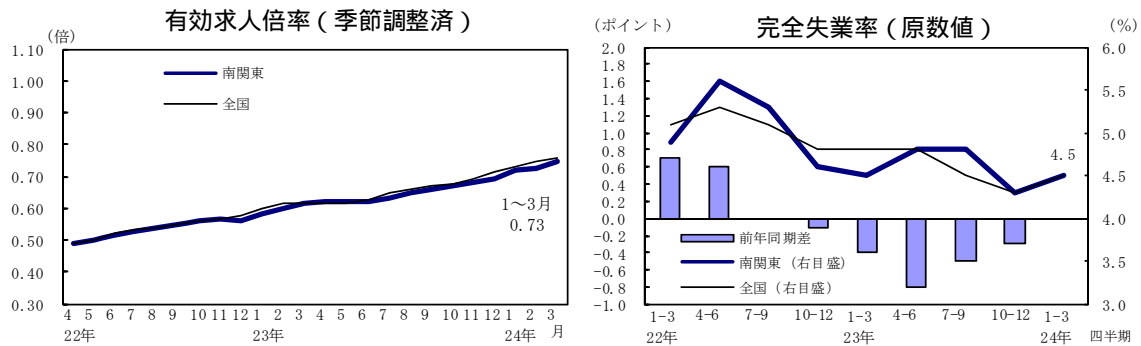


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

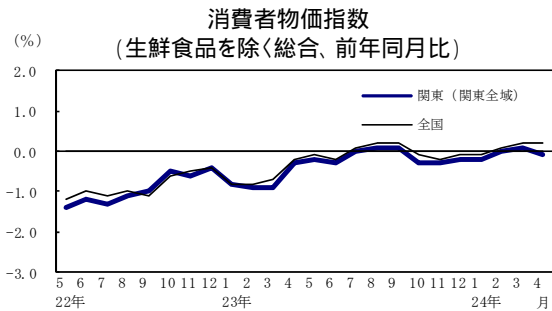
「原油価格の高騰、円高の長期化、夏場の電力不足による警戒感があるのか、新規求人件数は前月比で10%減少している (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は増加し、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は、おおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	24年4月
倒産件数 (前年比)	1,025 ▲8.3	1,023 ▲1.4	1,027 ▲5.5	1,095 8.5	346 ▲2.3
負債総額 (前年比)	1,822 ▲60.1	3,669 ▲72.8	2,164 ▲33.5	9,424 311.9	492 ▲24.2



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・今の経済環境や、夏場に向けての節電や計画停電等も非常に大きく響いている。最小限、必要な物だけで生活をしている人が多いようである (一般小売店[印章])。

<先行き>

・エコカー補助金の終了が7月末ぐらいとの見込みがあり、最後の駆け込み需要で良くなる (乗用車販売店)。

